

## 福音の悟り (マルコ 6 : 45~52)

アブラハムは神様に召された後、しばらくはさまよい続けていました。行ってはならないエジプトの方に下って行ったり、自分の妻を妹だと偽って大変な目に遭ったり、また女奴隷との間にイシュマエルという息子が生まれるようになったりということの繰り返しでした。しかし、ある日を境にして、一人息子イサクをいけにえとして捧げなさいと言われたときに、文句一つ言わず即座に動いて実行する信仰の者になっていました。何がアブラハムをそのように変えたのでしょうか。その境目はいったい何だったのでしょうか。イスラエルの民がエジプトの奴隷だったときに、過越の血を塗ることで、神の奇跡の力によって皆出エジプトしました。一緒に出エジプトしたにもかかわらず、ほとんどの人は荒野の 40 年間で死んでしまいます。しかし、ヨシュアとカレブは約束の地カナンに入ることができました。一緒に出エジプトしたのに何が違うのでしょうか。どこが違ったのでしょうか。もう一つ、サウル王とダビデ王は同じイスラエルの王です。しかもサウル王は最初は身長も高く格好良い人でした。それにプラス最初に王として召されたと聞いたときには、自分の身を隠すほどとても謙虚な人でした。それなのに結局、悪霊に取りつかれて、最後は戦場で悲惨な死を迎えることになりました。ダビデは多くの兄弟の中で末っ子でした。末っ子はあまり良い扱いをされない時代でした。それで皆が嫌がる羊飼いの番の仕事ばかり任されるような、そういう状況でした。にもかかわらず、ダビデはイスラエルの最高の王になり、神のみこころにかなったと称賛される王になりました。サウル王とダビデの違いはいったい何だったのでしょうか。それは神様から与えられました福音を正しく悟って自分のものとして握ったのか、福音を悟っていなかったのかの違いです。福音を悟るのかそうじゃないかがこれほどの差を生むようになるということを心に覚えましょう。私たちの人生の勝利は福音を正しく悟ることで始まります。そして、その福音の悟りは人生勝利の絶対的な鍵となるものです。ならば、私たちはさまざまなテーマがあるでしょうけれども、一番に福音は何でしょうか。福音を正しく悟るようにしてくださいという願いを持つことが大切な課題ではないでしょうか。

### 1. 福音を悟ったとはどういうことなのか。

そのためにまず第一に、福音というのはいったい何なのか。福音を悟ったということは、どういうことなのかを正しく理解しなければなりません。

教会に通う人は大勢います。また途中で離れていく人もたくさんいます。通っているとしても、本当に福音を正しく悟ったのかどうかは別問題なのです。

#### 1) 人の問題の根本を知り認める。

福音を正しく悟るということは、礼拝に参加して聖書を一生懸命に読むことではありません。福音を正しく悟ったということは、まず人の問題の根本が何かを知り、それを素直に認めることです。そこから福音の悟りがスタートします。普通の人、また世の中では犯罪が問題だというふうに言っています。病や貧乏、いじめ、家庭内の離婚、政治の腐敗、社会制度がどうのこうのなどが問題だと言っています。間違いなくそれは問題でしょう。しかし、それが問題だと思っている限り、福音を悟ることは無理なのです。問題には間違いありませんが、それが問題だと思っている限り、そこ止まりなのです。本当の問題、その裏に隠れている根本的な問題があるのに、それが問題だと思っている限り、それが見えないように壁ができてしまうのです。だから、世の中は問題意識があるにもかかわらず、困難がずっと続くわけです。犯罪はもちろん問題です。しかし、根本的な問題ではありません。いじめも問題です。病ももちろん問題です。しかし、それが問題だとその問題意識に囚われている限りは、その裏にある本当の問題が見えなくなるのです。だから、教会に通っていても、なかなか福音を悟ることができずと続くようになります。本当の問題は、実は人が神様を離れてしまったことによってそのたましいが死んでしまったということが問題です。それがなぜ問題なのかと言いますと、その結果、目には見えないが人を滅ぼしてしまう悪魔、サタンの奴隷になり、それゆえ罪とのろいと地獄の運命を抱えて生きるしかない存在になってしまいます。これこそが問題であり、これが問題の根本なのです。どのような問題でもそれが問題ではなくて、これこそが本当の問題なのです。人に躓かないように。傷などをずっと抱えていないように。これが本当の問題だと知り、認めることから福音を悟ることが始まります。

## 2) 世にあるものや人の力では不可能

つまり、今、これが問題だと認めることは、裏返しますとこの世にあるものや人の力では絶対解決不可能だということを認めざるをえません。これが福音を悟るということです。私が理解している限り、教会に通っている 90%以上の方は、まだこの悟りがありません。だからまた重荷を背負って道徳や何かに縛られて、自分で必死に頑張ろうとしているのです。2 部礼拝でも申し上げるつもりですが、それは何ひとつ役に立ちません。まず、これを知り、素直に認めることです。

## 3) 創世記 3:15、出エジプト 3:18、イザヤ 7:14

そのときに初めて、なるほど、だから神様は最初から女の子孫を通して蛇の頭を踏み砕くと約束されたんだね。女の子孫キリストを通して蛇、悪魔、サタンの頭を踏み砕くことだけが希望なんだね。そして、そのキリストが罪人の身代わりとなって犠牲のいけにえとして十字架で死なれること以外に方法は無いんだということが分かるようになります。その神様の約束のみことばが聞こえてくるようになります。それで悪魔の頭を踏み砕いて罪とのろいを代わりに背負ってすべて解決したそのキリストが、処女が身ごもって子どもを産む、その名をインマヌエルと言いなさい、そのキリストによって神様が人とともにおられるいのちの祝福が与えられます。その約束のみことばだけに希望があります。

## 4) Only キリスト > イエスはキリスト (ヨハネ 19:30)

つまり、ただのキリストではなくて、何かどうするという事はもう消えてなくなり、キリスト Only、Only キリストのほかに希望などは語る事ができないということにたどり着くようになります。これが福音を悟るということです。そして、そのキリストが約束のままではなくて、実際に人間の姿をとってこの地上に来られ、十字架にかけられてすべての問題を解決し、三日目に死者の中から復活なさったキリストだということが証明されました。その方をイエス様というわけです。福音を悟ったというのは、十字架にかけられて復活なさったイエス様こそキリストなんだと知ることです。イエス様が十字架の上でヨハネ 19:30、すべてを完了した。悪魔の頭を踏み砕いて、罪とのろいと地獄の運命を消して、神様と出会い、いのちの祝福に預かることができるすべてを完了した。イエス様はキリストというメッセージこそが福音なのです。イエスはキリストということが分かったときに福音を悟ったというわけです。

## 5) 誰でも信仰により ローマ 8:1-2、ヨハネ 3:5、Ⅱコリント 5:17、Ⅰコリント 3:16、ヨハネ 1:12

当然、今までのすべての法則が全部崩れ落ち、ただ一つ、誰でもこのイエス様を信じることで信仰によって死と罪の原理から完璧に解放されて、新しく生まれるようになり、古いものは過ぎ去り、完璧に新しい被造物として作り変えられるようになります。これが福音です。そして、これが分かったときに福音を悟ったというわけです。誰でもです。このイエス様を信じることで、あなたがたは聖霊が宿る神の神殿であることが分かっていないのか。三位一体の神様が聖霊を通して信じる人の内側に入って住まわれるようになります。イエス様を信じるとそうなるんだ。イエス様を信じると信じるだけなのに、そのように作り変えられるんだ。これが福音です。それを悟ったことが福音を悟ったということです。古いものはもう過ぎ去ったということが分かったのだから、これが福音を悟ったというわけです。それで当然「受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権」が与えられ、神の子どもとしての身分が与えられるようになります。「そうなんだ」と分かったことが福音を悟ったということです。今申し上げました全部を一言に縮めると、イエスはキリスト、ここに希望があり、ここにのみ希望の光があります。このように悟ったことを福音を悟ったと言います。教会に通っているのにこの福音がなかなか悟れないのです。なぜなのでしょう。このキリストの光が輝かないように誘い込む霊が教会に通って礼拝を捧げているのにもかかわらず、思いをくらませてこのことだけは聞こえないように、このことだけは悟れないように邪魔しているからなのです。

## 2. 福音を悟らないと、古い人から自由になれない。

これが福音であり、福音を悟ったということであれば、二番目です。この福音を悟らない限り、古い人から自由になることはできません。

教会に通っていながらも、なぜ答えがなかなか見つからないのか。なぜさまよい続けるのか。アブラハムのその境目はなんだったのか。サウル王とダビデ王の違いはどこにあったのか。福音を悟ったのか、

悟ってないのかにあるわけです。福音を悟らない限り、サウル王でもイスラエルの民であっても古い人に囚われてそこから自由になることができません。

1) (52) 3、6、11 止まり、奇跡を見ても、驚きと疑問に止まる。

今日の聖書の 52 節を見ますと、こう書いてあります。「というのは、彼らはまだパンのことから悟るところがなく」。悟っていないのです。五つのパン、二匹の魚の奇跡を見たにもかかわらず、びっくりはしましたけれども驚き止まりであり、その後は疑問だけが残っているのです。パンを食べるその奇跡が問題ではなくて、イエスはキリストなんだということを悟るためのことなのに、その悟りはないまびっくりして満腹になってこれは何だろうという疑問、はてなだけが残っている状態なのです。五つのパンと二匹の魚で五千人以上の人を食べさせる奇跡を見たにもかかわらず、今申し上げましたイエスはキリストという福音を悟っていませんでした。その結果、その心は固く閉じていたと言われていました。心が閉じたというのはどういう意味なのかというと、新しいキリストによる祝福に対してオープンされないといけなのに、以前のままの心の状態、閉じこもっている。つまり、創世記 3、6、11、自分、肉、この世中心、その中に閉じ込められている状態のままなのです。旧約の聖書も新約の聖書も原理的に同じです。荒野でイスラエルの人たちが神様のさまざまな奇跡を見たにもかかわらず悟りはありませんでした。出エジプト 17:7 を見ますと、水が飲めなくて大騒ぎになっていたときに、岩から泉を出して飲ませました。その時にそれを飲んで、こういうふうに記録されています。「それで、彼はその所をマサ、またはメリバと名づけた。それは、イスラエル人が争ったからであり、また彼らが、「主は私たちの中におられるのか、おられないのか」と言って、主を試みたからである」と書いてあります。水を飲んで奇跡を体験したにもかかわらず、神様がおられるのか、おられないのかこんがらがってるわけです。悟っていません。今日の聖書に登場している弟子たちと同じパターンです。五千人以上が食べる奇跡を見たにもかかわらず、まだ悟っていないと言われていました。だから驚き止まりなのです。奇跡を見ることは悪いことではありません。でも、驚き止まりは、はてながまだ消えていません。何だろうこれ？という疑問ばかりなのです。

2) 礼拝と御言葉が自分のものにならない

なので、福音を悟っていないと古い人に閉じ込められたままなので、自分、肉、この世中心の考え方に縛られており、礼拝に出て神のみことばを聞いてもそれが自分のものにならないのです。これが心が閉じているという意味です。

3) 出エジプトしたのに、イエス様に従ってるのに（教会）。次のステップに進めない。

先ほども申し上げましたように、出エジプトしたにもかかわらず、それが次のステップに進むことができません。今日の聖書に出てくるように、イエス様に従っているのに、教会に通っているのに、その次に繋がらないまま古い人に操られるままの状態です。つまりくのもそうだし、喜ぶのもそうだし、全部がその基準なのです。

4) 実際（決定的瞬間）は、3、6、11 へ

それで古い人から抜け出すことができないまま、閉じ込められているままの状態なので、実際に生きることはいつも 3、6、11 に流されるようになります。そして、決定的な瞬間、全部がその古い人間に流されるしかありません。私たちの内側には、福音以前に心の傷を抱えていました。また、常識が固まっています。律法の法則に従って因果応報の法則などが刻まれている者なのです。福音を悟っていないと決定的な瞬間、また、実際にはそういったものに促されるようになります。信者なのに礼拝を捧げているにもかかわらず、何を食べるか、何を飲むか、何を着るかのテーマから絶対的に自由になりません。そして、決定的な時には、自分の自尊心、お金、成功、名誉を中心にして揺れてしまい、振り回されることになってしまいます。福音を悟っていないと古いものから自由にならないので、そうならざるをえません。だから、いつも人につまずき、問題があるとつい問題だと思ってしまい、この世を見て恐れたり羨んだりするしかありません。この世が怖くてしょうがない、あるいは羨ましくてしょうがない状態から出られないのです。自分のプライドが少し傷つくと、触られると我慢できません。爆発します。その時は教会でも牧師でもなんでも関係ありません。なぜなら閉じ込められてるからです。古い人から自由になってないのでいつも何かを判断して人を評価するときにも、常識に従って、律法に従って、道徳に従って、正しいか正しくないか判断する。生かすことには繋がりません。

### 5) 霊的メッセージ、御座の祝福に!?

なぜなのでしょう。本人はそうなのかどうかも気づいていません。福音を悟っていないと心が閉ざされているから、古い人のままなので、そこから出られない。そういう状態なのに、そこに講壇から霊的なメッセージが語られて御座の祝福かどうのこうのと語られたときには、すごい話なのですが「うん？」とはてなが残るだけなのです。それではなく、どうすればパンが手に入るのか、そういう話を、少しわかりやすい話をして欲しいよと 30 年教会に通っていてもずっと同じ状態が続くわけなのです。古い人から自由になりません。せっかく教会に通い、礼拝を捧げるところに導かれているにもかかわらず、なんと残念でしょう。福音を悟っていないと右に転んでも左に転んでもどっちでもだめになります。だから右なのか左なのかを選択する前に、まず福音を悟らないといけません。聖書の証拠、皆さんの人生を振り返って歴史を勉強して、そのような判断に立たないといけません。誰かが憎くてしょうがないのでしょうか。人につまづいているのでしょうか。まだ古い人に閉じ込められているからです。2 部でも申し上げます。それは皆さんに福音を悟りなさいというサインなのです。

### 3. 福音を悟ると、いのちの祝福をアーメンして味わえる。

しかし、この素晴らしい福音、イエスはキリストという福音を悟っていれば、その人はいのちの祝福を当然なものとして、疑問ではなくて「うん？」ではなくて「あ～あ！」と当然のものとしてアーメンして、それを味わう人になります。

これは天と地の違い、サウル王とダビデ王の違い、ヨシュア、カレブとイスラエルの民との違いなのです。皆さん、どのような人生を歩いて行きたいのでしょうか。福音がちゃんと悟れるといのちの祝福が不思議なものではなくて、イエス様が水の上を歩いてきたのが「ええ、幽霊なのか。不思議でしょうがない」ではなくて、「当たり前でしょう、イエスはキリストなのだから」とこのいのちの祝福が当たり前を受け入れられるようになります。これが福音を悟ったということです。そのときから講壇のメッセージが、聖書の話が自分のメッセージ、自分のものとして受け入れられるようになり、みことばの成就の人生を歩くようになります。

#### 1) 心が開かれ（御座）

先ほど心が閉ざされていたと言ったように、反対に福音を悟ると心が開かれます。何に対してでしょうか。いのちの祝福、御座の祝福に向かって心がオープンされます。御座の祝福が現れて、それが自分のものであるということが当たり前だというふうになるようになります。目に見えないから、みな馬鹿にしているのです。相手にしていないでしょう。福音を悟っていないからです。イエスはキリスト、私が神の神殿であれば、キリスト私の内側にいらっしゃることが間違いなければ、土の器のような惨めな人間であります。私の内側に宝のキリストがおられることが福音なのです。それが間違いなければ古いものは過ぎ去り、私にはこの世の祝福とは比べることができない、この世の人たちは真似できない、そして、この世を生かすための御座の天の祝福が私には約束されていて、私のものなのです。それを当たり前と思われないといけません。今日の聖書を見ますと、弟子たちはイエス様が水の上を歩いてくるのを見てびっくりして幽霊かと思いました。皆さんもこれを見ながら、そのように驚くのは当然だろうと思うかもしれませんが。それが普通なのです。でも五つのパンと二匹の魚で五千人以上食べさせる奇跡を通して、イエスは女の子孫キリスト、その方に間違いないと悟っていれば、水の上を歩いているときに「なるほど、やはりね、さすが」というふうになるのが信仰でしょう。びっくりしたままの理由について聖書は明確に「彼らは悟っていない」と言われます。奇跡を見てもそれが無駄に終わってしまいます。悟りがなければ。彼らはイエス様をお迎えすることで湖との格闘は終わりました。

#### 2) キリストの御名を神の国の鍵と暗やみを縛る権威として使う。

福音を悟ると御座のいのちの祝福が当然なものになり、だからキリストの御名が自分の武器になります。キリストの御名が御座の祝福、神の国を開ける鍵であるということを疑わず信じます。だから、キリストの御名によって当たり前前に 3.9.3 の祝福が私に臨まれるようになっていきます。何かを感じるか感じないかではなくて、疑わずに三位一体の神様が働いて御座の祝福と力と光をもって私のうちなるものを強めて、空前絶後の答えとともに 3 つの時代を生かす証人として立ててくださる。その中には成功という言葉も全部含まれているのです。証人として。そのために霊力、知力、体力、経済力、人材の力が許さ

れます。これがキリストの御名によって。自分のどうのこうのと関係ありません。これが福音です。その御名が私にも与えられています。その鍵が地上で解く者は天においても解かれていて、地上で縛る者は天でも縛られるよと。キリストの御名が本当に天の御国を開ける鍵だということを疑わないように。これが福音です。そして、そのキリストの御名によって、やみの力を縛る権威が現れるということ当たり前に信じてキリストの御名を使うわけです。どういう問題があるのでしょうか。問題ではありません。つまづかないように。心配しないように。その裏で働いている暗やみの力を見て、キリストの御名を使わないといけません。これを珍しく思わないで当然なこととして、当たり前に思いましょう。皆さん、小さなレムナントを始め、年配の方に至るまで、職業がどうであれ、体力があるかどうか関係なく、福音を悟った人にはこれが自分のものなのです。何が怖いのでしょうか。だから、どこにいても砂漠の真ん中でも構わないのです。その砂漠は御座の祝福には勝てないわけですから。かなわないのです。天にある霊的すべての祝福を与えられました。これを悟ることを福音を悟ったと言います。福音を悟ると御座のいのちの祝福を当然なものとして「アーメン」と疑わずに味わいます。だから、その人はもがかないで祈るようになります。心配しないで祈ります。人に復讐などしないで祈ります。

どのようにすればこの福音を悟ることができるのでしょうか。頑張るから、修行するからではありません。ヨハネ 14:26「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます」。もうひとりの助け主、聖霊によって悟れるのだとあります。エペソ 1:17には「どうか、私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように」。知恵と啓示の御霊の働きによって悟れるようになると言われています。それからⅡコリント 10:4-5、その聖霊様がどのようにして悟りを与えられるかと言いますと「私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。私たちは、さまざまな思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ」。そのように聖霊様が皆さんの内側で働きます。なので心配しないで福音を悟れるように、このように言われている聖霊様が自分の内側で働くようにと祈ってください。それで福音を悟ったときに皆さんは、ただ教師や大人や牧師から言われたから暗記するのではなくて、心から喜んで告白するようになります。「Only キリスト。イエスはキリスト。すべての問題終わった。すべての祝福は私のものなんだ」と告白した時に、やっと使徒 1:7-8 の上に立つようになります。それらはあなたがたは知らなくてもいいです。自由な人だけに許される信仰の土台です。Only 一つだけに集中しないで。聖霊が臨まれると、力を得て、地の果てにまでイエスの、わたしの証人となるんだと。この約束の中に人生のすべての勝利が全部入っているので、それだけを握って使徒 1:14 の祈りに専念していただきましょう。祈りの課題が多い人は、正しい祈りではないかもしれません。何がそんなに課題が多く、何がそんなに願いなののでしょうか。聖霊に満たされていないのにその願いは本当に正しい願いだと自負できますでしょうか。だから、使徒 1:7-8 の上に立って 14 節の祈りに入るクリスチャンになりましょう。福音を悟ったときにはそうなります。それが福音を悟った裏返しの一つなのです。何も気にしないで。変な人間がいても、状況が逆転されていても何も気にしないで。Only 聖霊が臨まれると、神様に失敗などありません。神のご計画を変えて止められるようなものは宇宙に存在しません。なので、これだけに集中して聖霊の導きに従うようになり、勝利の主人公としてしっかりと立つようになります。

(祈り)

恵み深い父なる神様。福音を正しく悟って、使徒 1:7-8 の上に立って祈りに専念することができる信者になるように、聖霊様がひとりひとりの上に豊かに働いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン